

新しい学年のスタートですね。

仕事柄か、新学年がスタートすると学問に関する言葉がふと浮かんできます。その中の一つに「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず」という言葉があります。この言葉に最初に出会ったのは多分、井上靖の小説の中ではなかったかと記憶しております。

私はこれを、学問への取り組みを表す格言と勘違いしていました。しかし、後でわかったことですが、これは、中国の詩人、朱熹の七言絶句の初めの二行だとわかりました。ただ、朱熹の漢詩だという説にも異論があるようで定かではありません。朱熹の言葉としてもう一つ、「謂う（いう）なかれ、今日学ばずして来日ありと。謂うなかれ、今年学ばずして来年ありと」というものがあります。いずれも、勧学、すなわち、学問の大切さ、特に若い時の学問の大切さ、日々、学問をおろそかにしない取り組みを勧める言葉だと解釈できます。

ところで、英語にも似たような言葉（格言）があります。

Never put off till tomorrow what you can do today.  
「今日できることを決して明日までのばしてはいけない」です。

英語には、このほかにいくつか、興味深い言葉があります。

Slow and steady wins the race.  
Where there is a will, there is a way.  
Time and tide wait for no man.  
Strike while the iron is hot.  
Practice makes perfect.  
Rome was not built in a day.

いずれもよく知られている言葉です。意味を書くスペースがありませんので省きます。よかったら自分で調べてみてください。覚えるのもいいですね。